

53

華岡流の繁栄と衰退

土手健太郎¹⁾, 矢野 雅起¹⁾, 高石 和¹⁾, 牧野 洋²⁾¹⁾ 愛媛県立中央病院麻酔科・集中治療部, ²⁾ 浜松医科大学麻酔科

【はじめに】

華岡青洲の全身麻酔・外科手術手技は、全国的には広まらなかったとされていたが、近年になり松木、梶谷らの研究や地方の郷土史や医師会史などの情報から、少しずつ地方での華岡流の発展の状況が分かるようになってきた。しかし、これらを踏まえた上での、華岡流の全日本的な繁栄や衰退を研究した報告は少ない。そこで我々は、日本全国において華岡流の門人の数、全身麻酔下手術数、乳癌手術数が何処で何件行われたかを、可能な限りの文献・論文・著書・インターネット情報を用いて入手し、華岡流の繁栄と衰退について検索・検討したので報告する。

【方法】

全国の入手可能な文献・論文・著書・インターネット情報を用いて、華岡流の門人の Web 上の情報と乳癌手術数、全身麻酔下手術数が何処で何件行われたかの情報を入手し、華岡流の繁栄と衰退について検索・検討したので報告する。

【結果】

I. 門人数. 梶谷光弘著“華岡直道・青洲・鷺洲・厚堂が主宰した華岡家に入門した門人たち”によると、華岡流門人は、合計 2255 名（九州 315, 中四国 717, 近畿 605, 中部 419, 関東 95, 東北 102 名）であった。この中で、青洲の生前門人は 1104 人、没後門人は 1151 人で、没後門人のほうが多かった。この中で、Web 上に数多くの記述が残っており名医と呼んで差し支えないと思われた門人は九州から東北まで合計 33 名（九州 4, 中四国 9, 近畿 9, 中部 3, 関東 4, 東北 4 名）で、全体の 1.4% であった。

II. 乳癌手術数. 当時の手術記録や手術時の書き込みなど手術実施の証拠が存在する乳癌手術数は、熊本から茨城まで合計 259 名 279 件であった。最も多かったのは、和歌山の華岡青洲鷺洲厚堂 167 名 177 件で、続いて岐阜の不破廉斎杏斎 63 名 72 件、岡山の難波抱節経直 12 名 12 件、兵庫の杉立以成 2 名 3 件、愛媛の鎌田玄台 2 名 2 件、島根の大森泰輔加善 2 名 2 件、大阪の華岡鹿城南洋 1 名 1 件、熊本の飯田春達 1 名 1 件、熊本の渡辺宗悦 1 名 1 件、大分の小田順亭 1 名 1 件、広島の小川清介 1 名 1 件、岡山の久原洪哉 1 名 1 件、京都の高階兵馬 1 名 1 件、福井の橋本佐内 1 名 1 件、東京の杉田立卿 1 名 1 件、栃木の中川愿誌 1 名 1 件、茨城の本間玄調 1 名 1 件であった。明治以降の記録も 10 例残っていた。

III. 全麻手術数. 手術実施の証拠が存在する全麻手術件数は、熊本から青森まで合計 23 か所 559 件であった。最も多かったのは、和歌山の華岡青洲鷺洲厚堂 258 件で、続いて岐阜の不破廉斎杏斎 94 件、愛媛の鎌田玄台 93 件、岡山の難波抱節経直 24 件、大阪の華岡鹿城南洋 23 件、茨城の本間玄調 23 件、茨城の結解素庵 12 件であった（10 件以上の手術の記述が残っているもの）。そのほか、15 か所 32 件であった。明治以降の記録も 11 件残っており、クロロホルムと麻沸湯麻酔を比較した報告が 2 件認められた。

【考察】

今回の研究で、華岡流では、青洲の生前門より没後門人のほうが多く、華岡流が青洲の死去に伴い減んでいった訳ではなく、青洲晩年は繁栄の初期だと考えられた。青洲没後も数多くの全身麻酔下手術が数多くの華岡流名医たちによって行われ、それぞれの地方で地域医療に貢献した。この青洲没後から幕末にかけてが華岡流がもっとも繁栄した時期と考えられる。明治以降、西洋医学の流入と医療法制の変更により、都市部では急速に田舎では緩徐に華岡流は衰退していった。

【結論】

青洲によって創められた華岡流外科は、青洲晩年から幕末にかけて最も繁栄し、明治以降、都市部では急速に田舎では緩徐に衰退していった。